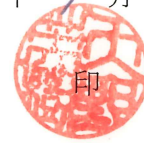


# 審査結果報告書

2024 年 1 月 10 日

主 査 氏 名

天野 英樹



副 査 氏 名

三階 貴史



副 査 氏 名

佐々木 治一郎



副 査 氏 名

スズキ 玲子



1. 申請者氏名 : 石崎あや那

2. 論文テーマ : Implication of Skeletal Muscle Loss in the Prognosis of Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Receiving Chemotherapy  
(化学療法中の膵癌患者の予後予測における骨格筋量減少がもたらす意義)

3. 論文審査結果 :

膵臓癌は消化器癌の中で最も予後不良で早期発見が困難である。切除不能膵癌患者に対し GEM+nab-PTX は標準的な治療レジメンであるが、その導入時もしくは治療の初期段階での効果を予測できる有用な予後因子について十分に検証がされていない。サルコペニアは筋肉量が減少することで身体機能が低下する状態で、消化器癌領域癌を中心にサルコペニアは術後合併症、化学療法の有害事象・治療効果、予後との関連が報告されているが、切除不能膵癌の予後に関しての報告は検索した限り 2 報のみである。申請者は 2015 年から 2020 年まで北里大学病院で 1 次治療として GEM+nab-PTX を受けた切除不能膵癌患者 251 例を対象に治療開始後のサルコペニアの変動が長期予後に及ぼす影響を後方視的に検証し下記に記した 1-5 について明らかにした。

1. 切除不能膵癌患者 251 例に関し傾向スコアマッチングを行い、解析対象は 180 例(サルコペニア群 90 例、非サルコペニア群 90 例)となった。
2. サルコペニア群とでは非サルコペニア群で無増悪生存期間(PFS)と全生存期間(OS)で有意差が認められなかった。
3. 多変量解析を用いた解析で遠隔転移と m-GPS は PFS 不良と相関性を示した。パフォーマンスステータス 1-2、遠隔転移、m-GPS 高値は OS 不良と相関性を示した。m-GPS 高値群は低値群と比較し PFS 中央値と OS 中央値が何れも有意に短かった。
4. 骨格筋指数(SMI)減少群と SMI 非減少群で PFS と OS は何れも SMI 減少群が有意に短かった。
5. Grade 3 以上の有害事象に関しサルコペニア群は非サルコペニア群と比較し有意に多く認めた。

以上の結果より治療開始早期の骨格筋量の減少は、一次治療として、GEM+nab-PTX を受けた切除不能膵癌患者における長期予後の早期指標となる可能性が示唆された。本研究は臨床上的観点から価値が高く、それをまとめた本論文も大変優れており学位論文として相応しいものである。更に、審査の場においても適切な研究の呈示と回答が得られたため、審査員全員の合意の上で申請者の学位審査は合格と判断した。